



佐野中通信

ひたちなか市立佐野中学校
令和7年度学校だより
No.12 2月号
令和8年2月2日(金)

燐々照今 よりよき今をともに創らん

間もなく立春 寒さに負けず 体調管理を第一に!!

令和8年も丸一ヶ月が過ぎ去りました。毎年1月というと、3年生にとっては私立高校や高専の推薦試験、そして一般試験、1・2年生にとっては学力診断のためのテストとこれまでの学習の成果を試すときであり、自分の力を知るよい機会です。1・2年生は得点や順位の変動に一喜一憂しがちなものです、3年生にとってはより現実的な結果と向き合うことになります。3年生は卒業を間近に控え、一人、そしてまた一人と自分の進路を決定していきますが、県立高校を第一志望としている生徒よりも一足先に次の春の見通しが立って満足感と安心感に包まれている人もまだ、羽目は外さず、毎日の学校生活を楽しみつつ、「ノリ」のある日々を送ってほしいと思っています。

さて、先週の月曜日1月26日の朝には、夥しい数の欠席の連絡が入りました。1年生の多くが感染症や発熱などの症状を訴え、学年全体でざつと40名ほどの欠席者がいました。1年生は2月2日と3日に一泊でのスキー宿泊学習を予定しています。これ以上体調を崩す生徒を増やさないために、迷うことなく、金曜日の30日まで学年閉鎖としました。この翌日の1月27日です。今度は2年生の欠席者が一気に増えました。これまた、金曜日まで学年閉鎖としました。3年生は、毎年のことながらこの時期に体調を崩す生徒が多く出る記憶はありませんが、最高学年のみなさんは持ち堪えて登校を続けることができました。それにしても、3年生だけでも総勢227名の学年ではありますが、やはりふた学年の生徒がいないと、通学時、道路や自転車置き場、そして朝の昇降口どこを見てもさびしく感じられました。登校してきた3年生からも、その人数の少なさを感じ取って、いつもと違う様子に自然とわび



✓ しさめいた言葉を発する生徒がちらりほりと見受けられました。そんな朝ではありますが、普段は出勤後に真っ直ぐに自分の学年、教室へと向かう1・2年の先生も、昇降口や正門に立って、3年生に声をかけながら出迎える姿が見られました。これはこれでいつもとは異なる風景ですが、自分の立ち位置を考えての行動であり、また先生たちみんなで佐野中生を見守っていこうという気持ちの表れだろうと思います。そんな先生達の姿は、給食の準備の時間にも見て取ることができました。

この給食についてですが、急遽の学年閉鎖の決定、しかも二日間連続のことでしたので、突然の仕事に見舞われたのは栄養教諭の先生です。食材の仕入れ先に次々と連絡を入れ、納入をとめができるものは断り、少しでも無駄が出ないように休む暇なく電話をかけまくりました。火曜日には約200食、水曜日以降は約400食超の減食です。さぞかし大変だったことと思います。その一方で止められなかった食材については少しでも生きようと、3年生にはより多くの給食を提供できました。食べ盛りの中学生、おいしい給食を選んで食べることができたことは、よい思い出になったかもしれません。

もう一つ触ると、今週の献立にはなんと「脱脂粉乳」がありました。1年生と2年生の1学級はこの機会には今回は恵まれませんでした。日常の会話でも中々耳にすることのない飲み物ですが、中学時代の思い出の一つとして、また別の日にこんな経験と出会わせることができればよいなと思っています。それにしても「脱脂粉乳」を飲んだ感想はどうだったのでしょうか。御自宅で、直接聞いていただければと思います。



生活の柱：時空人の「間」を照らす－時「間」・空「間」・人「間」

Key Word：時空人の間を燐々と照らして よりよき今をともに創らん



「食育」

1年生においては、1月21日（水）4時間目に栄養教諭による「栄養指導」が行われました。

食事の大切さについて、朝食を通して考えることができました。授業では「今、食べているものをさらによくするためには、どうしたらいいか？」をそれぞれが考えました。「少しだけステップアップをしてみよう」という栄養教諭のお話から、普段の朝食に「プラス1品」から始めてみることになりました。自分の朝食について各自が考え、献立を考えることができました。

最後に、朝食は、学習にも運動にも大切なこと、と改めて気付くことができました。また、今後も継続してほしい、と栄養教諭から伝えられました。「早寝、早起き、朝ごはん」を合言葉に、しっかり朝食をとってから登校しましょう。

今回は、1・2組の授業でしたが、3組～6組は、2月に実施予定です。お楽しみに!!

「職場体験発表会」
2年生では、各クラスで職場体験の発表会が行われました。職場体験に意欲的に取り組んだ成果からか、とても充実した内容の発表が多く見られました。



3年生は受験期間がいよいよ本格的になり、それぞれの進路に正面から向き合っています。私立高校入試の前にはオンラインを使用し、試験への心構えやこれから的生活について丁寧に説明しました。三者面談も終了し、茨城県立高校へも出願となります。保護者や担任とたくさん進路について話し合ったこと思います。自分の進路実現に向けてこれからラストスパート、体調に気をつけて頑張ってほしいと思います。



昇降口の西口から南西方向を見上げると、目に飛び込んでくるものがあります。それは、「書き初め」の作品です。近年にあっては、働き方改革などといった名目とともに、この書き初めをなしにするような動きもあるようですが、佐野中ではそんなことはしません。本校の教育目標は「郷土のよき伝統を受け継いで、その真のよさを後世に伝えることのできる生徒を育てる」です。書き初めの起源は平安時代にまで遡るようですが、そんな歴史的な背景や、書き初めに臨むときの心構えなどにも触れながら、年の初めの年中行事として大切にしていきたいものです。

佐野中の書き初めの特徴は、全員が同じ文言を書き上げるのではなく、人それぞれに選んだ言葉が異なります。全学年、全学級の作品をつぶさに見ていくと、中には知らない四字熟語などもたくさんあり、不勉強さを思い知らされます。ちなみに、全3学年を通して最も多く金賞を獲得した言葉は、今年は「一意専心」だったことを紹介しておきます。